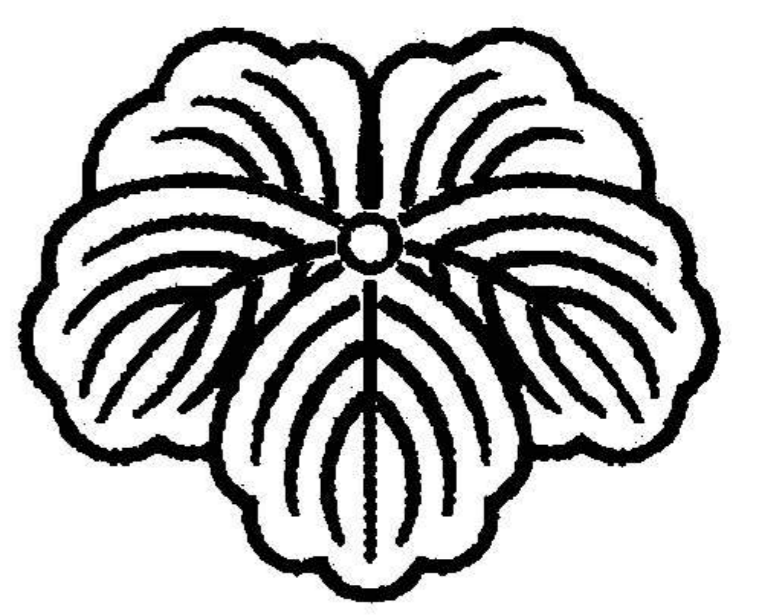


「りゅうま伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に伺うという気持ちでお届けしている。



りゅうま伝

3号
2020年2月27日
高野竜馬

「コピー7割の法則」
もっとTTPせんか、字が小さくて読む気がせん！」
前号を出した時、こんなクレームを頂きました。しかも手書きニコーズレターの元祖「とっとと通信」も「ガワガワ添付して頂いて。(笑)TTPとは徹底的にパクリの略。」
お氣付きの方も多いとは思いますが、実はこの手書きニコーズレター、畏敬する平川社長の「とっとと通信」のパクリです。ただ、初めて「とっとと通信」を見たとき、正直なところ「こりやダメだ」と思いました。「手書きなんて誰も読まないよ。」と。前戦時代からワープロでキレイなニコーズレターを作っていた私はそう思いました。ところがこれまで2回手書きしてみました。分かったことはダメなのは私の方だということです。それほど手書きの反響は大きなものでした。

ただ一口にコピーといっても、これが案外難しいのです。例えばボールペン一つとっても私のだとして、平川社長に聞いてみたところ0.38ミリの細字ペンを使っている。こんな感じで物事をコピーするのは難しいもので、ちょっとした誤差が醸し出す雰囲気も変えていることを実感します。コピー7割の法則を提唱している私の師匠も次のように書いています。
「コピーはオリジナルを超えられない。これは認めます。でも、完全なコピーならオリジナルの成績の70%はいける。これは私の経験則上、間違いないありません。冒頭のご批判とおり「完全コピー」がポイントです。どう書かただけでなく、平川社長の視点まで盗めるよう努力致します。以下、「とっとと通信」でも紹介された有名なコラムをそのまま

転記、ご紹介させて頂きます。
「ごめんね、野球」
幼い頃に父が亡くなり母は再婚もせず、俺を育ててくれた。学もなく、技術もなかった母は個人商店の手伝いみたいな仕事で生計を立てていた。それでも当時住んでいた土地はまだ人情が残っていたので、何とか母子二人で質素に暮らしていた。
娯楽をする余裕なんてなく、日曜日は母の手作りの弁当を持って近所の河原とかに遊びに行っていた。給料をもらった次の日曜日にはクリムパンとコーンを買ってくれた。
ある日、母が勤め先からプロ野球のチケットを2枚もらってきた。俺は生まれて初めてのプロ野球観戦に興奮し、母はいつもより少しだけ豪華な弁当を作ってくれた。
野球場に着き、チケットを見せて入ろうとすると、係員に止められた。母がもたらしたのは招待券ではなく優待券だった。チケット売場で一人千円ずつ買ってチケットを買わなければいけないと言われ、帰りの電車賃くらいしか持っていなかった俺達は外



たかの財形事務所
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13
☎090-3407-2123
<https://www.takanozaikai.com> メール fp.takano@gmail.com

「りゅうま伝」の題字は娘(9歳)が書いてくれました。親子共々成長して参ります！